

公表:令和 5年 12月27日

事業所名 放課後等デイサービス みかづき

		チェック項目	はい	どちらとも いえない	いいえ	工夫している点	課題や改善すべき点を踏まえた改善内容又は改善目標
環境・ 体制整備	①	利用定員が指導訓練室等スペースとの関係で適切であるか	○			学習室と活動室を区切っており、目的に応じたスペースの確保を行っている。	10名での活動を想定して、余裕あるスペースを確保できるような活動内容やカリキュラムを検討していきます。
	②	職員の配置数は適切であるか	○			サービスの質の向上を考慮して、専門職の配置を心がけている。	専従、常勤の割合を高めることで安定した人数を確保できるように努めます。
	③	事業所の設備等について、バリアフリー化の配慮が適切になされているか		○		大きな段差はないが、車椅子等での利用については通路幅やトイレには難点がある。	ユニバーサルデザインを意識して、誰にとっても使いやすい環境設定を考えていきます。
業務改善	④	業務改善を進めるためのPDCAサイクル(目標設定と振り返り)に、広く職員が参画しているか	○			月に一度の運営会議にて実施後の振り返りをおこなっていく。	業務効率化と効果測定を適切に行うことで、スタッフの意識を高めています。
	⑤	保護者等向け評価表を活用する等によりアンケート調査を実施して保護者等の意向等を把握し、業務改善につなげているか	○			ご意見いただいた内容をスタッフにフィードバックして、改善につなげている。	日常のやりとりでもご意見や意向を丁寧に確認していきます。
	⑥	この自己評価の結果を、事業所の会報やホームページ等で公開しているか	○			定期的を実施。	今後、独自の項目等によりサービスの質を評価していく取り組みを検討したい。
	⑦	第三者による外部評価を行い、評価結果を業務改善につなげているか			○	今後、積極的に検討行う予定。	前向きに外部の視点や風を取り入れるよう検討します。
	⑧	職員の資質の向上を行うために、研修の機会を確保しているか	○			施設全体の目標として掲げ、個人個人が遂行できている。	BSCを用いて、年間の計画を立て、個人の目標に落とし込む手法を用いています。
	⑨	アセスメントを適切に行い、子どもと保護者のニーズや課題を客観的に分析した上で、放課後等デイサービス計画を作成しているか	○			現状、周囲からの情報(学校、保護者)が主となっているが、前提として子ども自身の意思決	子ども主体の計画書が作成できるよう、全スタッフのアセスメント能力を向上していくことを目指します。
適切な 支援の 提供	⑩	子どもの適応行動の状況を図るために、標準化されたアセスメントツールを使用しているか		○		独自の評価にとどまっており、不備のないよう検討中のアセスメントシートあり。	標準化されたツールについては今後、独自に開発あるいは参考書式を用いることを検討します。
	⑪	活動プログラムの立案をチームで行っているか	○			より良い活動ができるよう、日々のミーティングで打ち合わせを行っている。	年齢層や能力に合った活動内容を提示できるよう、アイデアを出しあったり、議論していきます。
	⑫	活動プログラムが固定化しないよう工夫しているか	○			子ども達の特性に応じて、楽しく成長できるよう工夫している。	常に子どもたちに楽しんでもらいながら成長してもらうことを念頭に工夫していきます。
	⑬	平日、休日、長期休暇に応じて、課題をきめ細やかに設定して支援しているか	○			根幹のカリキュラムに変更はないが、活動時間に応じて内容を変更している。	平日、休日の違いや活動時間の変動をうまく取り入れたプログラムを増やしていきたい。
	⑭	保護者等向け評価表を活用する等によりアンケート調査を実施して保護者等の意向等を把握し、業務改善につなげているか	○			ご意見いただいた内容をスタッフにフィードバックして、改善につなげている。	日常のやりとりでもご意見や意向を丁寧に確認していきます。

児 供	⑭	子どもの状況に応じて、個別活動と集団活動を適宜組み合わせて放課後等デイサービス計画を作成しているか	○			子どもの特性や状況に応じて作成している。	小集団での活動が社会性を養ううえで必要であると捉え、日々何らかの交流機会をプログラムに組み込んでいます。
	⑮	支援開始前には職員間で必ず打合せをし、その日行われる支援の内容や役割分担について確認しているか	○			毎日のミーティングで必ず行っている。	送迎をはじめ、どの子どものような課題にアプローチしていくかを役割とともに共有しています。
	⑯	支援終了後には、職員間で必ず打合せをし、その日行われた支援の振り返りを行い、気付いた点等を共有しているか	○			毎日のミーティングで必ず行っている。	振り返りを行うことで支援の効果測定や次の支援に繋がるものとして大切にしている。
	⑰	日々の支援に関して正しく記録をとることを徹底し、支援の検証・改善につなげているか	○			個別の活動記録では各々の支援課題を設定し、記録に残している。	記録から支援の振り返りや成長の変遷を追えるように配慮しています。
	⑱	定期的にモニタリングを行い、放課後等デイサービス計画の見直しの必要性を判断しているか	○			6か月ごとに全職員で個別カンファレンスを行い、モニタリングを行っている。	個々の児童の成長に合わせて目標の達成度合いや見直しをしています。
	⑲	ガイドラインの総則の基本活動を複数組み合わせて支援を行っているか	○			今後は地域との関わりを持つ活動を増やしていく予定。	地域をエンパワメントしていく視点から、事業所の役割を検討していきます。
関 係 機 関 や 保 護 者 と の 連 携 関 係 機 関 や 保 護 者 と の	⑳	障害児相談支援事業所のサービス担当者会議にその子どもの状況に精通した最もふさわしい者が参画しているか	○			情報を十分に共有し、ふさわしい者が出席している。	直接支援の担当者も選定しており、包括的な視点で会議ができるように工夫していきます。
	㉑	学校との情報共有（年間計画・行事予定等の交換、子どもの下校時刻の確認等）、連絡調整（送迎時の対応、トラブル発生時の連絡）を適切に行っているか	○			日々の送迎時や必要に応じて情報共有、連絡調整を行っている。	子どもたちの揺らぎは連続性のあるものと認識し、前後のエピソードをできる限り把握できるように努めていきます。
	㉒	医療的ケアが必要な子どもを受け入れる場合は、子どもの主治医等と連絡体制を整えているか			○	医療的ケアが必要な子どもの受け入れ実績なし	現時点で、医療管理が必要な子どもを積極的に受けられる体制はないため、知識とスキル、資格者の配置を検討していきます。
	㉓	就学前に利用していた保育所や幼稚園、認定こども園、児童発達支援事業所等との間で情報共有と相互理解に努めているか			○	現時点は実績なし。今後はケースに応じて対応していく。	他デイサービスから紹介をいただくケースもあるため、今後は進学・進級などに伴って、連携の機会を増やしていきます。
	㉔	学校を卒業し、放課後等デイサービス事業所から障害福祉サービス事業所等へ移行する場合、それまでの支援内容等の情報を提供する等しているか			○	対象児童なし。	開所して間もないため、実績はないが、支援経過をしっかりと引き継げるように記録の整備等をしていきます。
	㉕	児童発達支援センターや発達障害者支援センター等の専門機関と連携し、助言や研修を受けているか	○			適宜おこなっている。	研修参加や連携機会を模索し、支援の力量を向上させるため、計画的に実行していきます。
	㉖	放課後児童クラブや児童館との交流や、障がいのない子どもと活動する機会があるか	○			通所児童各々が、交流機会を持つことができている。	活動をともにする機会はまだまだないが、今後地域連携の一環として計画していきます。

連携	⑳	(地域自立支援)協議会等へ積極的に参加しているか	○			地域連携強化のため積極的に参加している。	参加者を変えるなどして、業務調整をしながらなるべく積極的に参加してもらうようになっています。	
	㉑	日頃から子どもの状況を保護者と伝え合い、子どもの発達の状況や課題について共通理解を持っているか	○			送迎時や電話、メールでのやりとりを通じて保護者との共通理解を深める努力を行っている。	連絡調整の手段を多く持ち、気軽に情報交換できるように体制を整備していきます。	
	㉒	保護者の対応力の向上を図る観点から、保護者に対してペアレント・トレーニング等の支援を行っているか			○	今年度の施設目標に掲げており、実施予定。	家庭環境や保護者の療育に対する助言等ができるように、その機会を設定していきます。	
保護者への説明責任等	㉓	運営規程、支援の内容、利用者負担等について丁寧な説明を行っているか	○			体験時、契約時等に説明を行っている。	明確な説明と同意をしています。実費については事前に通知をして同意取得するようにしています。	
	㉔	保護者からの子育ての悩み等に対する相談に適切に応じ、必要な助言と支援を行っているか	○			突発的な相談等にも丁寧に耳をかたむけ対応している。	非構造的な場面でも、傾聴と相談を受けられるように全スタッフに伝達していきます。	
	㉕	父母の会の活動を支援したり、保護者会等を開催する等により、保護者同士の連携を支援しているか			○	今後、連携支援を検討していく予定。	年1回程度の保護者会の開催を計画しています。	
	㉖	子どもや保護者からの苦情について、対応の体制を整備するとともに、子どもや保護者に周知し、苦情があった場合に迅速かつ適切に対応しているか	○			保護者から連絡があった場合には迅速かつ適切に対応しています。	ご指摘や苦情に関しては事業所が成長する機会として、真摯に向き合い改善していきたいと考えています。	
	㉗	定期的に会報等を発行し、活動概要や行事予定、連絡体制等の情報を子どもや保護者に対して発信しているか	○			HPやメール、ほかSNSを通じ、情報発信を行っている。	子どもたちの様子を伝える方法は個人情報に留意したうえで、積極的に広げていきたいと思っています。	
	㉘	個人情報に十分注意しているか	○			ファイルの保管や情報の漏洩など、職員ひとりひとり意識をもち十分注意している。	事業所としての取り扱い基準を定め、より適切な運用ができるようにしていきます。	
	㉙	障がいのある子どもや保護者との意思疎通や情報伝達のための配慮をしているか	○			障害のある保護者との意思疎通に配慮したり、イヤーマフの使用を行っている。	言語的なコミュニケーションをとることができる子どもが多いが、筆談や視覚提示、刺激の制限などを用いて、最適な方法を検討しています。	
	㉚	事業所の行事に地域住民を招待する等地域に開かれた事業運営を図っているか	○			定期的に地域開放日を設けている。	地域開放として見学を受け入れる日などを定期的に企画していきます。	
	非常時等	㉛	緊急時対応マニュアル、防犯マニュアル、感染症対応マニュアルを策定し、職員や保護者に周知しているか	○			マニュアルは作成済み。よりわかりやすいように周知方法を工夫していく。	どのような状況にも対応できるように、さまざまな場面を想定したマニュアルや訓練を実施していきます。
		㉜	非常災害の発生に備え、定期的に避難、救出その他必要な訓練を行っているか	○			初回の訓練は終わっている。曜日を変え、まんべんなく行っていく。	地震や火事のほかに、水害や雪害にも対応できるように、さまざまな場面を想定した具体的訓練を実施していきます。
㉝		虐待を防止するため、職員の研修機会を確保する等、適切な対応をしているか	○			委員会を開催し、内部研修を行っている。	適切な関わりができるように日々確認・議論していける体制を整えていきます。	

の 対 応	④①	どのような場合にやむを得ず身体拘束を行うかについて、組織的に決定し、子どもや保護者に事前に十分に説明し解を得た上で、放課後等デイサービス計画に記載しているか	○			原則、身体拘束をしないことを重要事項説明書に記載している。	身体拘束をしなくとも良い関わりや環境設定をまずは考えていきます。また、総合的に子どもたちの利益を尊重できる判断をしてきたいと思いません。
	④②	食物アレルギーのある子どもについて、医師の指示書に基づく対応がされているか			○	保護者からの聞き取りで提供しないこととしている。	疑わしい場合を含め、完全除去を徹底していきます。必要に応じて医師からの指示をもらうように調整していきます。
	④③	ヒヤリハット事例集を作成して事業所内で共有しているか	○			ファイルにて保管し、情報共有している。	ヒヤリハット、IAレポートを作成し共有しています。振り返りを重視し、未然に防ぐ取り組みを考えていきます。

◎ この「事業所における自己評価結果（公表）」は、事業所全体で行った自己評価です。